専修人文論集 113号
（2023）171−197

9世紀バグダードのガレノス研究：フナイン・ブン・イスハーク『ガレノス著作の翻訳についての書簡』翻訳(3)[1]

矢　口　直　英*

解題

本稿はフナイン・ブン・イスハーク（Ḥunayn ibn Isḥāq, 873年没）[2]著『［著者の］知る限りガレノスの著作のうち翻訳されたものと翻訳されていない幾つかのものとについての，アリー・ブン・ヤフヤーへの書簡』（*Risāla ilā ʿAlī ibn Yaḥyā fī dhikr mā turjima min kutub Jālīnūs bi-ʿilmi-hi wa-baʿḍ mā lam yutarjam*，以下『書簡』）の翻訳である。前回訳出した範囲では，解剖学や生理学，診断や予後に関する著作，薬品や処方に関する一部の著作など，多彩な著作に関する情報が扱われていた。今回は薬品や処方に関する著作の残りから，ヒポクラテス著作への注釈書，そしてガレノスの哲学的著作に関する部分を訳出する。これで『書簡』の全体を訳出したことになる。本翻訳は Bergsträsser 版に基づき，同校訂者の修正を加えた本文（以下底本）から作成した[3]。

＊専修大学文学部兼任講師

翻訳

79.『薬品の複合について』（*Fī Tarkīb al-adwiya*）［*De Compositione medicamentorum per genera*, XIII 362–1058; *De Compositione medicamentorum secundum locos*, XII 378–1007, XIII 1–361; Sezgin, 118, no. 64; Ullmann, 48, no. 50b, 50a］

この著作は十七巻で作られた。彼はそのうち七巻で複合薬品の類をまとめ，それぞれの類を数え上げ，例えば潰瘍に肉を生やす薬品の類，潰瘍を化膿させる薬品の類，消散させる薬品の類をそれぞれ単独で作り，他の薬品の類もこれと同様に［作った］。これにおける彼の目的は薬品の複合の方法を総合的に説明することである。そのため，これら七巻の題名は『薬品の複合について総合と類に沿って』（*Fī Tarkīb al-adwiya ʿalā al-jumal wa-l-ajnās*）とした[4]。残りの十巻の題名は『薬品の複合について苦痛ある場所に応じて』（*Fī Tarkīb al-adwiya bi-ḥasabi al-mawāḍiʿ al-ālima*）とした[5]。それによって彼は，これら十巻における薬品の複合の説明において，不限定に何れかの病気に何らかの作用を為す種類を告げるのではなく，場所，つまりその病気がある器官に応じた［説明］になるのを意図しようとした。そこで彼は頭から始めて，全ての器官を通り，それらのうち最も遠いもので終えた。

この著作をセルギオス（Sergius）[6]がシリア語に翻訳した。私は信徒たちの総督[7]ムタワッキル（al-Mutawakkil［アッバース朝第10代カリフ，在位847–861年］）のカリフ時代に，ヤフヤー・ブン・マーサワイヒ（Yaḥyā ibn Māsawayh）[8]のために翻訳した。私の翻訳からフバイシュ（Ḥubaysh ibn al-Ḥasan）[9]がムハンマド・ブン・ムーサー（Muḥammad ibn Mūsā）[10]のためにアラビア語に翻訳した。

80.『発見が容易な薬品について』（*Fī al-Adwiya allatī yashulu wujūd-hā*）［*De Remediis parabilibus*, XIV 311–581; Sezgin, 120, no. 65; Ullmann, 49, no. 54］

この著作は二巻である。これにおける彼の目的はその題名から明らかである。

私は非常に細心に探求したが，この著作のギリシア語の写本を一切見つけておらず，これが誰かのもとにあると聞いたこともない。これをセルギオスが翻訳したが，この時代にシリア人たちの手もとに現存するものは壊れており質が悪い。これには，ガレノスに帰されたこの分野についての別の巻が付け加えられているが，それはガレノスによるものではなく，フィラグリオス（Philagrius）[11]によるものである。私はこの巻をギリシア語で見たことがあり，フィラグリオスの［他の］諸巻と共にブフティーシューウのためにシリア語に翻訳した。著作の注釈者たちは［注釈する］だけに限定せず，この著作の中に多くの戯言，不思議で驚くべき処方，ガレノスが見たことも聞いたこともない薬品を挿入した。シリア語のこれが無かったなら――我々はこの著作の利益をその偉大さにもかかわらず否定しており[12]，ギリシア語で発見していないのだから――，私は喜んだであろう。というのも，その害はその利益より多いからである。私はオリバシオス（Oribasius）[13]がこの著作の写本は彼の時代にも発見できなかったと述べているのを見つけた。私のある友人が，私にシリア語の訳書を読んで，私がガレノスの見解に調和すると考えることに応じて訂正するよう頼んだので，それを行った。

81.『病に対抗する薬品について』（*Fī al-Adwiya al-muqābila li-l-adwāʾ*）［*De Antidotis*, XIV 1–209; Sezgin, 121, no. 66; Ullmann, 49, no. 53］

この著作は二巻で作られた。彼はその第一巻でテリアカ（tiryāq）[14]について説明し，第二巻でその他の合薬[15]を［説明した］。

この著作はこれまで翻訳されていない。そのギリシア語の写本は私の蔵

書に存在した。そして後に，ユーハンナー・ブン・ブフティーシューウ（Yūḥannā ibn Bukhtīshūʿ）[16]がシリア語に翻訳し，それの助けを私に求めた。彼の翻訳からイーサー・ブン・ヤフヤー（ʿĪsā ibn Yaḥyā）[17]がアフマド・ブン・ムーサー（Aḥmad ibn Mūsā）[18]のためにアラビア語に翻訳した。

82.『テリアカについて，パンフィリアノスへ』（*Fī al-Tiryāq ilā Bamfūliyānus*）［*De Theriaca ad Pamphilianum*, XIV 295–310; Sezgin, 121, no. 67; Ullmann, 49, no. 52］

この著作は小さな一巻である。

私はこれをシリア語で見たことがあり，おそらく私が若い頃に翻訳したのだろうと思う。ただし，それが壊れていたのを見たが，写字生たちがそれを壊したのか，それを改善しようとした者が壊したのかはわからない。そのギリシア語の写本は私の蔵書にあるのだが。イーサーがアブー・ムーサー・ブン・イーサー・カーティブ（Abū Mūsā ibn ʿĪsā al-Kātib）[19]のためにアラビア語に翻訳した。

83.『テリアカについて，ピソンへ』（*Fī al-Tiryāq ilā Fīsun*）［*De Theriaca ad Pisonem*, XIV 210–294; Sezgin, 121, no. 68; Ullmann, 49, no. 51］

この著作もまた一巻である。

これをアイユーブ（Ayyūb al-Ruhāwī）[20]がシリア語に翻訳した。私はヤフヤー・ブン・ビトリーク（Yaḥyā ibn al-Biṭrīq）[21]がアラビア語に訳していたと思う。その写本は私の蔵書にある。

84.『健康維持の方法について』（*Fī al-Ḥīla li-ḥifẓ al-ṣiḥḥa*）［*De Sanitate tuenda*, VI 1–452; Sezgin, 122, no. 69; Ullmann, 46, no. 44］

この著作は六巻で書かれた。これにおける彼の目的は，健康な人々をどのようにして健康に維持するかを教えることである。［健康な人々のうち

には］，完璧な健康の極みにある者とその健康が完璧の極みに足りない者，また自由人としての生を歩む者と奴隷としての生を歩む者がいる。

この著作をエデッサのテオフィロス（Theophilus）[22]がシリア語に翻訳したが，その翻訳は有害で質の悪いものであった。私はこれをブフティーシューウ・ブン・ジブリール（Bukhtīshūʿ ibn Jibrīl）[23]のために翻訳したが，それを翻訳した時には一点の写本しか準備できていなかった。そして後に別のギリシア語の写本を発見したので，それを校合し，ギリシア語から訂正した。そしてフバイシュがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳し，後にイスハーク（Isḥāq ibn Ḥunayn）[24]がアリー・ブン・ヤフヤー（Abū al-Ḥasan ʿAlī ibn Yaḥyā）[25]のために翻訳した。

85.『「トラスブロス」と呼ばれる著作』（*al-Musammā "Tharāsūbūlus"*）［*Thrasybulus sive utrum medicinae sit an gymnasticae hygiene*, V 806–898; Sezgin, 136, no. 142］

この著作は一巻である。これにおける彼の目的は，健康な人々の健康の維持は医術の一部であるか，運動家たちの技術の一部であるかを考究することである。これは，彼が『健康維持の方法について』［84］の始め，「これ以外の書物で証明した通り，身体の扶養を任された技術は一つである」[26]と言ったところで指示した巻である。

私はこの巻をシリア語に翻訳した。またフバイシュがアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサー[27]のためにアラビア語に翻訳した。

86.『小さな球体による運動について』（*Fī al-Riyāḍa bi-l-kura al-ṣaghīra*）［*De parvae pilae exercitio*, V 899–910; Sezgin, 136, no. 143］

この著作は小さな一巻である。これにおいて彼は杖と小さな球体による遊びの運動を称讃して，全ての種類の運動に優先させている。

私はこれを先の巻［85］と共にシリア語に翻訳した。またフバイシュが

アブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳し，イスハークがこの書物を校合して改善した。

ヒポクラテスの書物の注釈についての彼の著作。

87.『ヒポクラテス「誓い」注釈』（*Tafsīr li-kitāb ʿAhd Buqrāṭ*）［Sezgin, 123, no. 70; Ullmann, 62, no. 111］

この著作は一巻である。

私はこれをシリア語に翻訳し，私が作成した解説を難解な箇所に付け加えた。またフバイシュがアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。イーサー・ブン・ヤフヤーもまた翻訳した。

88.『「箴言」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Fuṣūl*）［*In Hippocratis Aphorismi commentarii*, XVIIb 345–887; Sezgin, 123, no. 71; Ullmann, 50, no. 58］

この著作は七巻で作られた。

これをアイユーブが翻訳したが，質の悪い翻訳であった。ジブリール・ブン・ブフティーシューウ（Jibrīl ibn Bukhtīshūʿ）[28]がその改善を欲したが，破綻が増えたので，私がそれをギリシア語と校合し，［新規の］翻訳に似た改善をした。私はそれにヒポクラテスの言葉の本文を独立して付け加えた。またイブン・ムダッビルとして知られるアフマド・ブン・ムハンマド（Aḥmad ibn Muḥammad Ibn al-Mudabbir）[29]がこれを翻訳するよう頼んだので，私はこれのうち一巻をアラビア語に翻訳した。そして彼は，翻訳されたその巻を読むまで他の巻の翻訳を始めないよう進言してきた。この人物は忙しかったので，この著作の翻訳は中断した。ムハンマド・ブン・ムーサーはその巻を見て，この著作の翻訳を完了させるよう頼んだので，私はそれを全て翻訳した。

89.『「骨折について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Kasr*）［*In Hippocratis librum*

De Fracturis commentarii, XVIIIb 318–628; Sezgin, 123, no. 72; Ullmann, 50, no. 57］

この著作は三巻で作られた。

私はそのギリシア語の写本を見つけたが，翻訳することができなかった。そして後にシリア語に翻訳し，またこれと共にヒポクラテスの言葉の本文を翻訳した。

90.『「脱臼の修復について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Radd al-khalʿ*）

この著作は四巻で作られた。

これについての話は先に述べた著作［89］の話と同様である。

91.『「予後」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Taqdimat al-maʿrifa*）［*In Hippocratis Prognosticum commentarii*, XVIIIb, 1–317; Sezgin, 123, no. 74; Ullmann, 50, no. 59］

この著作は三巻で作られた。

この著作をセルギオスがシリア語に翻訳した。私はサルマワイヒ（Salmawayh）[30]のためにシリア語に翻訳し，［ヒポクラテスの］言葉の本文をイブラーヒーム・ブン・ムハンマド・ブン・ムーサー（Ibrāhīm ibn Muḥammad ibn Mūsā）[31]のためにアラビア語に翻訳した。また注釈をイーサー・ブン・ヤフヤーがアラビア語に翻訳した。

92.『「急性病の処方について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Tadbīr al-amrāḍ al-ḥādda*）［*In Hippocratis librum De Acutorum morborum victu commentarii*, XV 418–919; Sezgin, 123, no. 75; Ullmann, 51, no. 61］

この著作は五巻で作られた。

その写本は私の蔵書にあるが，翻訳することができなかった。私はアイユーブが翻訳したと聞いている。私はこの著作の全体をヒポクラテスの言

葉の本文と共にシリア語に翻訳し，その内容を問答の形式で要約した。そしてこの著作のうち三巻をイーサー・ブン・ヤフヤーがアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。この三巻はこの［ヒポクラテスの］著作のうち真正な部分の注釈である。残りの二巻は疑わしい［部分］の注釈である。［イーサーが最初の三巻もまた翻訳した。］[32]

93.『「潰瘍について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Qurūḥ*）［Sezgin, 123, no. 76］

この著作は一巻で作られた。

これはこれまで翻訳されておらず，その写本は私の蔵書にある。そして後に，私はヒポクラテスの言葉の本文と共にイーサー・ブン・ヤフヤーのためにシリア語に翻訳した。

94.『「頭の怪我について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Jirāḥāt al-raʾs*）［Sezgin, 123, no. 77］

この著作は一巻である。

アイユーブがこれを翻訳していたと私は思う。そのギリシア語の写本は私の蔵書にあり，私はシリア語に翻訳したが，ヒポクラテスの言葉の本文の写本は発見していなかった。後に私はその集成[33]の要約を作成した。

95.『「流行病について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Abīdhīmiyā*）［*In Hippocratis Epidemiarum commentarii*, XVIIa 1–XVIIb 344; Sezgin, 123, no. 78; Ullmann, 61, no. 108］

この［ヒポクラテスの］書物の第一巻を彼は三巻で注釈した。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。私はムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

第二巻もまた三巻で注釈した。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。私はアラビア語に翻訳した。

第三巻は六巻で注釈した。

私はこの著作をギリシア語で入手したが，注釈の第五巻が欠けており，誤りが多く，途切れて，混乱していたので，それが［満足のいく］ギリシア語の写本となるように洗練させた。そしてそれをシリア語に翻訳し，またムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。この［注釈の］うち少しが［翻訳されずに］残っていたが，ある事態が私の蔵書に生じたので，その完成が妨げられた。

第六巻は八巻で注釈した。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。ガレノスの『「流行病について」注釈』のこの巻の写本は全て私の蔵書にある。

ガレノスは『流行病について』のこれら四巻以外を注釈していない。残りの三巻，つまり第四巻，第五巻，第七巻について，彼は「ヒポクラテスの言葉として捏造され，それらの捏造者は正鵠を得ていない」と述べているため，彼は注釈していない。

私は翻訳したガレノスの『「流行病について第二巻』注釈』の翻訳に，この巻におけるヒポクラテスの言葉の本文をシリア語とアラビア語に別々に翻訳して，それぞれ付け加えた。その後で，ガレノスがヒポクラテスの『流行病について第六巻』に注釈した八巻をアラビア語に翻訳した。『流行病』として知られるヒポクラテスの書物のうち四巻，つまり第一巻，第二巻，第三巻，第六巻へのガレノスの注釈の計十九巻を手に入れたので，私はその内容を問答の形式で要約した。これをイーサー・ブン・ヤフヤーはアラビア語に翻訳した。

96.『「体液について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Akhlāṭ*）［*In Hipporcatis librum De Humoribus commentarii*, XVI 1–488; Sezgin, 123, no. 79］

彼はこれは三巻で作ったと述べている。

私は過去にこれをギリシア語で見たことがなかったが，後に発見して，ヒポクラテスの言葉の本文と共にシリア語に翻訳した。イーサー・ブン・ヤフヤーがアブー・ハサン・アフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

97.『「予めの警告について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Taqdimat al-indhār*）［*In Hippocratis librum Praedictionum commentarii*; XVI 489–840; Sezgin, 136, no. 144］

私はこれまでこの著作の写本を発見していない。

98.『「診療所内において」[34]注釈』（*Tafsīr li-kitāb Qaṭīṭrīyūn*）［*In Hippocratis librum De Officina medici commentarii*, XVIIIb 629–925; Sezgin, 123, no. 80; Ullmann, 50, no. 60］

ガレノスはこの書物を三巻で注釈した。

私はこのギリシア語写本を入手していたが，翻訳することはおろか，それを然るべく読むことができなかった。また誰かが翻訳したとも知らない。そのギリシア語写本は私の蔵書にある。そして後に私はシリア語に翻訳し，その集成を作成した。そして，フバイシュがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

99.『「空気，水，土地について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Hawāʾ wa-l-māʾ wa-l-masākin*）［Sezgin, 123, no. 81; Ullmann, 61, no. 107］

この著作もまた三巻で作られた。

私はこれをサルマワイヒのためにシリア語に翻訳し，ヒポクラテスの言葉の本文を翻訳した。簡潔な解説を付け加えたが，それを完成させていない。また［ヒポクラテスの］本文をムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。フバイシュがガレノスの注釈をムハンマド・ブン・

ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

100.『「栄養について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb al-Ghidhāʾ*）［*In Hippocratis librum De Alimento commentarii*, XV 224–417; Sezgin, 137, no. 145］

この著作は四巻で作られた。

私はこれをサルマワイヒのためにシリア語に翻訳した。またこの書物におけるヒポクラテスの言葉の本文も翻訳し，簡潔な解説を付け加えた。

101.『「胎児の本性について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Ṭabīʿat al-janīn*）［Sezgin, 124, no. 82］

我々は［ヒポクラテスの］この書物についてガレノスの言葉による注釈を発見しておらず，ガレノスが自身の著作の目録においてこの注釈を作成したと述べたのも発見していない。ただし我々は，ヒポクラテスの解剖知識について彼が作成した著作［27］において，彼がこの書物を三つの部分に区分したのを発見した。彼は「この書物のうち第一の部分と第三の［部分］は偽作であり，ヒポクラテスによるものではない。真正なのは第二の部分だけである」と述べている。この部分をアレクサンドリアのゲシオス（Gessius）[35]が注釈した。

我々は三部分全体への注釈を二つ発見した。その一つはシリア語で，ガレノスによるものと銘打たれている。これをセルギオスが翻訳した。我々はこれを考究して，これがペロプス（Pelops）[36]によるものだと知った。もう一つはギリシア語である。我々はこれを考究して，方法学派に属するソラノス（Soranus）[37]によるものだと発見した。［フナインはこの［ヒポクラテスの］書物の本文を，ごく一部を除いて，ムウタッズ（al-Muʿtazz［アッバース朝第13代カリフ，在位866–69年］）のカリフ時代にアラビア語に翻訳した。］[38]

102.『「人間の本性について」注釈』（*Tafsīr li-kitāb Ṭabīʿat al-insān*）［Sezgin, 124, no. 83］

私の記憶では，この著作は三巻で作られた。

そのギリシア語の写本は私の蔵書にあるが，翻訳することができなかった。私以外が翻訳したというのも知らない。後に私はシリア語に翻訳して，完成させた。

［フナインはこの書物へのガレノスの注釈のうち第三巻を要約し，アラビア語に翻訳した。イーサー・ブン・ヤフヤーがこの書物へのガレノスの注釈を全て翻訳した。］[39]

103.『優れた医者は哲学者でなければならないことについて』（*Fī anna al-ṭabīb al-fāḍil yajibu an yakūna faylasūf*）［*Quod optimus medicus sit quoque philosophus*, I 53–63; Ullmann, 38, no. 2］

この著作は一巻である。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。そして後に私は我が息子のためにシリア語に翻訳し，イスハーク・ブン・スライマーン（Isḥāq ibn Sulaymān）[40]のためにアラビア語に翻訳した。そしてイーサー・ブン・ヤフヤーがアラビア語に翻訳した。

104.『ヒポクラテスの真作と偽作について』（*Fī kutub Buqrāṭ al-ṣaḥīḥa wa-ghayr al-ṣaḥīḥa*）［Sezgin, 137, no. 146; Ullmann, 53, no. 72］

この著作は一巻である。これは素晴らしく，役立つ著作である。

その写本は私の蔵書にあるが，翻訳する暇がなかった。私以外がこれを翻訳したというのも知らない。そして，私はイーサー・ブン・ヤフヤーのためにシリア語に翻訳し，その集成を作成した。［イスハーク・ブン・フナインがアリー・ブン・ヤフヤーのためにアラビア語に翻訳した。］[41]

105.『四大性質を肯定するヒポクラテスの仲間に対するクイントゥスによる批判のうち正しいものの研究について』（*Fī al-Baḥth ʿan ṣawāb mā thalaba bi-hi Quwāyinṭūs Aṣḥāb Buqrāṭ alladhīna qālū bi-l-kayfīyāt al-arbaʿ*）

この著作もまた一巻である。そのギリシア語の写本は私の蔵書にあるが，読むことができなかった。私はそれが真にガレノスによるものか知らない。それが翻訳されたとも思わない。

106.『ヒポクラテスの見解による昏睡について』（*Fī al-Subāt ʿalā raʾy Buqrāṭ*）［*De Comate secundum Hippocratem*, VII 643–665; Sezgin, 137, no. 148］

これについての話は，先に述べた著作［105］の話と同様である。

107.『ヒポクラテスの言葉遣いについて』（*Fī Alfāẓ Buqrāṭ*）［*Linguarum seu dictionum exoletarum Hippocratis explicatio*, XIX 62–157; Sezgin, 137, no. 149］

この著作もまた一巻である。これにおける彼の目的は，ヒポクラテスの書物全体における馴染みない言葉遣いを注釈することである。これはギリシア語で読む者に役立つが，ギリシア語以外で読む者には必要でなく，翻訳することも全く不可能である。その写本は私の蔵書にある。

彼がヒポクラテスの見解に倣ったと『目録』において述べた他の著作の何れも，私はこれまでギリシア語で出会ったことがない。彼がアリストテレスに倣って執筆したと述べた著作も，先に述べたもの以外出会ったことがない。

彼がアスクレピアデス（Asclepiades）[42]に倣ったと述べた著作も，小さな一巻を除いて発見していない。それについて述べよう。

108.『アスクレピアデスの見解による魂の実体について』（*Fī Jawhar al-*

nafs mā huwa ʿalā raʾy Asqalībiyādhas）

私はこの巻を若い頃ジブリールのためにシリア語に翻訳したが，それが正しい［翻訳である］と確信していない。なぜなら，私はこれを健全でない一点の写本から翻訳したからである。

経験主義者たち（Aṣḥāb al-tajārib）に倣った著作について，私は三巻を発見した。

109.『医学的経験について』（*Fī al-Tajriba al-ṭibbīya*）［Sezgin, 124, no. 87; Ullmann, 51, no. 66］

この著作は一巻である。これにおいて，経験主義者たちと教条主義者たち（Aṣḥāb al-qiyās）の相互の論争が語られている。

私はこれを近頃ブフティーシューウのためにシリア語に翻訳した。

110.『医学の学習の奨励について』（*Fī al-Ḥathth ʿalā taʿallum al-ṭibb*）［*Adhortatio ad artes addiscendas*, I 1–39; Sezgin, 138, no. 151; Ullmann, 53, no. 73］

彼はその中にメノドトス（Menodotus）[43]の著作を書き写した。この著作もまた一巻である。これは素晴らしく，役立ち，優雅な著作である。

私はこれをジブリールのためにシリア語に翻訳した。またフバイシュがアフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

111.『経験の梗概について』（*Fī Jumal al-tajriba*）

この著作もまた一巻である。

その写本は私の蔵書にあるが，翻訳していない。

医学の第三の学派［方法主義者］に倣った著作については一巻以外発見していない。私は吟味して，それが捏造だと知った。しかし，そのことを知っていたが，私はこれをブフティーシューウのためにシリア語に翻訳し

た。

私は彼が『目録』で述べていない他の著作を発見した。それらを述べよう。

112.『最良の医者の試験について』（*Fī Miḥnat afḍal al-aṭibbāʾ*）［Sezgin, 125, no. 88; Ullmann, 52, no. 70］

この著作は一巻である。

私はこれをブフティーシューウのためにシリア語に翻訳した。またムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

113.『ガレノスが信じていた見解について』（*Fī-mā yaʿtaqidu-hu raʾyan*）［Ullmann, 51, no. 64］

この著作もまた一巻である。これにおいて彼は，知っていることと知らないことを説明している。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。私は我が息子イスハークのためにシリア語に翻訳した。サービト・ブン・クッラ（Thābit ibn Qurra）[44]がムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。またイーサー・ブン・ヤフヤーがアラビア語に翻訳し，それをイスハークが底本と校合し，アブドゥッラー・ブン・イスハーク（ʿAbd Allāh ibn Isḥāq）[45]のために改善した。

114.『医学的名詞について』（*Fī al-Asmāʾ al-ṭibbīya*）［Sezgin, 125, no. 89; Ullmann, 52, no. 68］

この著作は五巻で作られた。これにおける彼の目的は，医学者たちが用いる名詞がどのような意味で用いられるのかを証明することである。

そのギリシア語の写本は私の蔵書にあるが，私も私以外も翻訳していなかった。そして後に，私はその三巻をシリア語に翻訳した。またフバイシュ

が第一巻をアラビア語に翻訳した。

論証についての彼の著作のうち私が発見したものを述べよう。

115.『論証について』（*Fī al-Burhān*）［Ullmann, 62, no. 112］

この著作は十五巻で作られた。これにおける彼の目的は，必然的に証明されるものを証明する方法がどのようなものかを証明することである。これはアリストテレスの論理学に関する四番目の著作[46]における目的である。

これまで我々の時代の人々の誰も，『論証について』のギリシア語の完全な写本を入手していない。ジブリールがそれを非常に細心に探求し，私も極めて探求したのだが。私はこれを探求してジャズィーラ（Jazīra）[47]，シリア（Shām）の全土，パレスチナ（Falasṭīn），エジプト（Miṣr）の街々を遍歴して，ついにアレクサンドリアに到ったが，ダマスクスでこれの半分ほどを発見できただけである。しかし，これは連続していない［一部の］巻であり，完全でもなかった。ジブリールもまたこれのうち［一部の］巻を発見したが，私が発見した巻とその全てが同じではなかった。発見されたものをアイユーブが［ジブリール］のために翻訳した。私はこれの何れも翻訳したいとも，読み終えたいとも思わなかった。これ［の写本］が欠けており，空白だらけであったからであり，この著作の完全なものを発見したいという欲求と魂の欲望[48]があったからである。そして，私は発見していたものをシリア語に翻訳した。これは第二巻の少しの部分，第三巻の大半，第四巻の最初の半分ほど，最初を除いた第九巻――それは欠落していた――である。他の全ての巻について，第十五巻を除いてこの著作の最後まで発見した。というのも，この［第十五巻の］最後には欠けがあったからである。［イーサー・ブン・ヤフヤーが第二巻から第十一巻のうち発見されたものを翻訳した。イスハーク・ブン・フナインが第十二巻から第十五巻をアラビア語に翻訳した。］[49]

この分野に関するこれ以外の彼の著作については，それらが多く，『目録』がそのことを示しているにもかかわらず，私は一巻を除いて全く入手して

いない。

116.『仮言的推論について』（*Fī al-Qiyāsāt al-waḍʿīya*）

私はこれについて然るべく伝えられず，これの中にあるものを知らず，この著作の断片も［知らない］。

117.『［医］術の成り立ちについて』（*Fī Qiwām al-ṣināʿāt*）［*De Constitutione artis medicae*, I 224–304; Sezgin, 140, no. 161］

［これ］と幾つかの巻については，アリストテレスの哲学に関係する著作を述べる際に述べよう。そのため，これらの著作のそれぞれについて［ここで］述べる必要はない。望む者は，『目録』からそれらを知ることが可能だからである。

118.『人間は自身の罪過と瑕疵をどのように知るか』（*Kayfa yataʿarrafu al-insān dhunūb-hu wa-ʿuyūb-hu*）

ガレノスはこの著作を二巻で書いたと述べたが，私は欠けた一巻しか発見していない。

私はこれのうち幾らかを，かなり前に医師ダーウード（Dāʾud al-Mutaṭabbib）[50]のためにシリア語に翻訳したが，ある出来事が起きたため，私がギリシア語で発見したものを完成させることなくその翻訳は中断した。そして，ブフティーシューウが私に近頃，彼のために完成させるよう頼んだので，私はトゥーマーと言われるエデッサ出身の人物（Tūmā al-Ruhāwī）[51]にそれを委ねた。彼が残っていたものを翻訳し，私がそれを校閲し，改善し，先［に翻訳した］ものに付け加えた。

119.『性格について』（*Fī al-Akhlāq*）［Ullmann, 63, no. 113］

この著作は四巻で作られた。これにおける彼の目的は，性格の種類，そ

の原因，その徴候，その治療を説明することである。

この著作を，マンスール・ブン・アタナスと言われるサービア教徒（Manṣūr ibn Athānās al-Ṣābiʾ）[52]がシリア語に翻訳した。またアイユーブ・ルハーウィーも翻訳したと人々は述べている。私はマンスールが翻訳したものを見たが，満足しなかった。アイユーブが翻訳したと人々が述べるものについては私は見ておらず，彼が何か翻訳したか否かも知らない。私はこの著作をシリア語に翻訳していないが，アラビア語には翻訳した。私がこれを翻訳したのはムハンマド・ブン・ムーサーのためであった。そして，ムハンマド・ブン・アブドゥルマリク（Muḥammad ibn ʿAbd al-Malik）[53]との交際のために私は［この］著作のことから離れていた。翻訳したものを完成させるようムハンマドが頼んだので，私はそれを行った。またフバイシュが私の翻訳からユーハンナー・ブン・マーサワイヒ（Yūḥannā ibn Māsawayh）[54]のためにシリア語に翻訳した。私はそれを入手していない。

120.『悲しみを退けることについて』（*Fī Ṣarf al-ightimām*）［Sezgin, 69; Ullmann, 65, no. 118］

この著作は一巻である。これは，［ガレノスが］悲しんでいるのを見たことがなく，それはどうしてかを尋ねた人物のために書かれた。そこで，彼はその理由を説明し，悲しみが必然となるのは何故か，必然とならないのは何故かを証明した。

この著作をアイユーブがシリア語に翻訳した。私は医師ダーウードのためにシリア語に翻訳した。またフバイシュがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。

121.『善き人間は敵からも利されることについて』（*Fī anna al-akhyār min al-nās qad yantafiʿūna bi-aʿdāʾi-him*）［Ullmann, 65, no. 117］

この著作もまた一巻である。

私はこれをダーウードのためにシリア語に翻訳した。またフバイシュがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。イーサーもまたアラビア語に翻訳した。

プラトンの哲学に倣った著作については，先に述べた見解についての著作［46］以外に二冊しか発見していない。

122.『プラトンが「ティマイオス」として知られる書物で述べる医学の知識について』（*Fī mā dhakara-hu Aflāṭun fi kitābi-hi al-maʿrūf bi-Ṭīmāʾūs min ʿilm al-ṭibb*）［Sezgin, 126, no. 90; Ullmann, 64, no. 115］

この著作は四巻で作られた。

私はこれをハッラーン（Ḥarrān）[55]で発見したが，その最初は少し欠けており，翻訳することができなかった。そして後にシリア語に翻訳し，その最初の欠けを補完した。また私がその第一巻をアラビア語に翻訳し，イスハークが残りの三巻をアラビア語に翻訳した。

123.『魂は身体の混質に従うことについて』（*Fī anna quwā al-nafs tābiʿa li-mizāj al-badan*）［*Quod animi mores corporis temperamenta sequuntur*, IV 767–822; Ullmann, 39, no. 6］

この著作は一巻である。これにおける彼の目的はその題名から明らかである。

これをアイユーブがシリア語に翻訳した。そして，私はサルマワイヒのためにシリア語に翻訳した。またフバイシュが私の翻訳からムハンマド・ブン・ムーサーのために［アラビア語に］翻訳した。ムハンマドがそれをギリシア人イスタファン（Iṣṭafan）[56]と共に校合し，幾つかの箇所を改善したと，私は聞いている。

私はこの分野に関する著作のうち，

124. プラトンの書物の集成を含んだガレノスによる八巻のうち四巻をもつ別の著作を発見した。その第一巻にはプラトンの書物のうち五点，つまり名前についての『クラテュロス』（*Cratylus*）という［書物］，分割についての『ソピステス』（*Sophistes*）という［書物］，統治者（mudabbir）についての『ポリティコス』（*Politicus*）という［書物］，イデア（ṣuwar）についての『パルメニデス』（*Parmenides*）という［書物］,『エウテュデモス』（*Euthydemus*）の集成がある。第二巻には政治（*siyāsa*）についてのプラトンの書物［『国家』］のうち四巻の集成がある。第三巻には政治についての書物の残りの六巻の集成と，『ティマイオス』（*Timaeus*）として知られる自然学（ʿilm ṭabīʿī）についての書物の集成がある。第四巻にはプラトンの法典（sunan）についての十二巻［『法律』］の内容の梗概がある。

私は最初の三巻をアブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・ムーサー[57]のためにアラビア語に翻訳した。［その全てをイーサーが翻訳し，フナインが政治の書物［『国家』］の集成を改善した。］[58]

アリストテレスに倣った著作については，一点の著作以外発見していない。それは，

125.『第一動者は動かないことについて』（*Fī anna al-muḥarrik al-awwal lā yataḥarraku*）［Ullmann, 65, no. 116］
である。この著作は一巻である。

私はこれをワースィク（al-Wāthiq［アッバース朝第９代カリフ，在位842–847年］）のカリフ時代にムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳し，その後でシリア語に翻訳した。またイーサー・ブン・ヤフヤーがアラビア語に翻訳した。なぜなら，私がかつて翻訳した写本は散逸したからである。［そして，イスハーク・ブン・フナインがアラビア語に翻訳した。］[59]

126.『論理学の入門について』（*Fī al-Madkhal ilā al-manṭiq*）［Ullmann, 51, no. 63］

この著作は一巻である。これにおいて彼は学生たちが必要とし，論証の学問において役立つものを証明した。

私はこれをシリア語に翻訳した。またフバイシュがムハンマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。［フナインがそれを校合し，アリー・ブン・ヤフヤーのために改善した。］[60]

127.『推論の数について』（*Fī ʿAdad al-maqāyīs*）

この著作は一巻である。

私はこれをまだ精査していなかったが，それからシリア語に翻訳した。［我が息子イスハークがアラビア語に翻訳した。フナインがそれを校合し，アリー・ブン・ヤフヤーのために改善した。］[61]

128.『アリストテレスの書物のうち「命題論」と呼ばれる二番目の著作の注　釈　』（*Tafsīr li-l-kitāb al-thānī min kutub Arisṭūṭālīs alladhī yusammā Bārīmīniyās*）

この著作は三巻で作られた。私はその欠けた写本を発見した。

ストア学派（Aṣḥāb al-riwāq）に倣った著作とソフィストたち（sūfisṭāʾīn）に倣った著作については，何も入手していない。文法や雄弁の徒と共通する［ガレノスの］著作は多数あるにもかかわらず，私は一巻以外発見していない。それは，

129.『言葉が不正確な者を叱責する者について』（*Fī-man yalūmu alladhī yalḥanu fī kalāmi-hi*）

である。私はこの著作が七巻であると『目録』で発見したが，それが書写者たちの誤りであるかは分からない。私が発見したものは一巻だからである。

私はこれをシリア語にもアラビア語にも翻訳しておらず，私以外も翻訳していない。

彼が『目録』において説明した他の著作について知りたい者は，私が言った通り，彼の著作の目録から知ることが可能である。残っているのは，私がこの書物をどの年齢の期間に執筆したかを伝えることだけである。なぜなら，人生において時間ができたら，これまで翻訳していない著作を翻訳することができると期待しているからである。

私がこの書物を書いた時期における私の年齢は四十八歳であり，これはアレクサンドリア暦[62] 1167年（西暦855/56年）であった。私がまだ翻訳していなかったが［後に］翻訳することができたもの，あるいは私がこれまで発見していなかったが［後に］発見することができたものの記述を，順々に，そうすることができた年［の情報］と共にこの書物に記載していくことは可能であろう。神がお望みならば。

その後，私はアレクサンドリア歴1175年（863年）のアーザール月（第９月）に，先の時からこれまでに翻訳したものを追加した。

［私は，その名が知られていないギリシア語から，誰かがガレノスの七点の著作の集成を抜粋したのを発見した。そのうちには，『治療方法について』［20］の集成，『原因と症状について』［14］の集成，『脈拍について大著』［16］の集成，『単独薬品について』［53］の最初の五巻の集成，『発熱について』［17］の集成，『分利の日について』［19］の集成，『徴候について』[63]の集成がある。これらをフナインはアフマド・ブン・ムーサーのためにアラビア語に翻訳した。］[64]

［私（写本の書写者）が書写した元の写本の持ち主がその写本の最後で，彼の写本を書写する元となった写本の持ち主について，「これらの抜粋はアリー・ブン・ヤフヤーの写本に発見できず，別の写本に［発見した］」と伝えている。］[65]

アブー・ザイド・フナイン・ブン・イスハークによる，『彼が知る限りガレノスの著作のうち翻訳されたものについて』の書物は完結した。神に多くの讃えあれ。

本研究は JSPS 科研費 JP22K13027 の助成を受けたものである。

追記：「9 世紀バグダードのガレノス研究(2)」『専修人文論集』111 号（2022），149 頁 3–9 行目を以下のように訂正する。

『治療方法について』［20］を読む前に読む必要がある著作が，これらの著作に続く。私はそれらの著作の一部を，『元素について』［11］，『混質について』［12］，『原因と症状について』［14］，『体内器官の病気を知ることについて』［15］，『発熱の種類について』［17］，『［医］術』［4］を，また予後に関する著作のうち『分利について』［18］，『分利の日について』［19］，『脈拍について』の小著［5］と大著［16］を述べたところで既に述べた。

註

1　本稿は「9 世紀バグダードのガレノス研究：フナイン・ブン・イスハーク『ガレノス著作の翻訳についての書簡』翻訳(1)」『専修人文論集』109 号（2021），209–234 頁；同「(2)」『専修人文論集』111 号（2022），137–162 頁の続きである。

2　Cf. G. Strohmaier, “Ḥunayn b. Isḥāq,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2017–3, 76–83. E. Savage-Smith, S. Swain and G. J. van Gelder, *A Literary History of Medicine: The ʿUyūn al-anbāʾ fī ṭabaqāt al-aṭibbāʾ of Ibn Abī Uṣaybiʿa*（Leiden: Brill, 2020）［以下，IAU］，vol. 2–1, 464–497, 507; vol. 3–1, 491–531, 541［8.29, 9.2］.

3　G. Bergsträsser, *Ḥunain ibn Isḥāq: über die syrischen und arabischen Galen-Übersetzungen*（Leipzig: Brockhaus, 1925）; *Neue Materialien zu Ḥunain ibn Isḥāq's Galen-Bibliographie*（Leipzig: Brockhaus, 1932）．これらを含む『書簡』の校訂版については，「9 世紀バグダードのガレノス研究(1)」を参照せよ。

4　これら七巻は「類に沿って」（κατὰ γένη）として知られる著作（*De Compositione medicamentorum per genera*）に当たり，アラビア語で「カタジャナス」（*Qāṭājānas*）とも呼ばれる。

5　これら十巻は「場所に応じて」（κατὰ τόπους）として知られる著作（*De Compositione medicamentorum secundum locos*）に当たり，アラビア語で「マヤーミル」（*al-Mayāmir*）とも呼ばれる。

6　536 年没。東方キリスト教徒で，ガレノスやアリストテレスの著作をシリア語に翻訳した人物である。彼らの著作のうち必須書全ての翻訳を企てていたと考えられる。

Sezgin, 177. IAU, vol. 2–1, 512; vol. 3–1, 547［9.24］.

7　「信徒たちの総督」（amīr al-muʾminīn）はカリフ（khalīfa）を指すもう一つの称号である。

8　ユーハンナー・ブン・マーサワイヒと同一人物。857 年没。何人かのカリフに仕えた医者で，フナインの師である。彼の医学の弟子であったフナインは，仲違いのために追放された後でギリシア語を習得して戻ってきて，彼にその実力を認められたという。Sezgin, 231–236; Ullmann, 112–115. IAU, vol. 2–1, 445–461; vol. 3–1, 465–487［8.26］.

9　9 世紀末に没。フナインの甥で弟子である。Cf. G. Strohmaier, “Ḥubaysh b. al-Ḥasan al-Dimashqī,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2017–4, 115f. Sezgin, 265f.; Ullmann, 119. IAU, vol. 2–1, 501f., 508; vol. 3–1, 535, 542［8.31, 9.4］.

10　873 年没。九世紀に科学の支援者として名声を博したバヌー・ムーサー家（ムーサー・ブン・シャーキルの息子たち）三兄弟の一人である。IAU, vol. 2–1, 515; vol. 3–1, 552［9.40］.

11　3–4 世紀活躍。テッサロニキで活躍した医学者で，70 点以上の著作を書いたとされるが，何れも現存しない。Sezgin, 154–156; Ullmann, 79–81. IAU, vol. 2–1, 286f.; vol. 3–1, 274f.［5.2.2］.

12　Bergsträsser の読み「jarabnā」ではなく，Lamoreaux の読み「ḥaramnā」を採る。

13　403 年没。ペルガモンの名家の出身で，アレクサンドリアで医学を学び，ローマ帝国のユリアヌス帝（在位 361–363 年）に仕えた医学者である。皇帝の死後，他の側近たちとともに追放されたが，後にその名誉は回復した。Sezgin, 152–154; Ullmann, 83. IAU, vol. 2–1, 285; vol. 3–1, 273f.［5.2.1］.

14　テリアカ（θηριακή）とは，多数の薬品を合わせて作成された薬剤である。本来は毒蛇や害獣（θηρίον）の毒への対抗が目的であるが，それら以外に様々な用途を網羅することが期待された。

15　合薬と訳した「maʿjūnāt」は現在では「練り薬」の意味をもつが，フナインたちは「テリアカ」の訳語として使用している。ここでは音写と区別して訳す。

16　没年不明。ブフティーシューウ・ブン・ジブリール（注 23）の婚外子で，侍医としてムタワッキルに仕えた。IAU, vol. 2–1, 502f., 513; vol. 3–1, 536, 548［8.32; 9.30］.

17　没年不明。フナインの弟子の一人である。IAU, vol. 2–1, 505, 508; vol. 3–1, 539, 542［8.35, 9.5］.

18　九世紀に科学の支援者として名声を博したバヌー・ムーサー家三兄弟の一人である。

19　詳細不明。

20　835 年頃没。エデッサのヨブ（Job of Edessa）として知られる東方キリスト教徒の翻訳者で，36 点のガレノス著作をシリア語に翻訳した。翻訳以外にも，自然哲学に関する著作を遺している。Sezgin, 230f.; Ullmann, 101f. IAU, vol. 2–1, 512; vol. 3–1, 547［9.25］.

21　815年頃没。キリスト教徒の翻訳者で，医学や哲学などのギリシア語文献をアラビア語に翻訳した。翻訳以外にも，医学や哲学に関する著作を遺している。Sezgin, 225; Ullmann, 326. IAU, vol. 2–1, 513; vol. 3–1, 549［9.32］.

22　785年没。キリスト教徒の占星術師，歴史家，翻訳者で，アッバース朝カリフ・マフディー（第3代，在位775–785年）に占星術師長として仕えた。Sezgin, 122.

23　870年没。東方キリスト教徒で，医者の名家ブフティーシューウ家の一人である。何人かのカリフに医者として仕え，自身も医学書を執筆した。IAU, vol. 2–1, 367–382; vol. 3–1, 370–384［8.4］.

24　910年没。フナインの息子で弟子である。Cf. G. Strohmaier, “Isḥāq b. Ḥunayn,” *Encyclopaedia of Islam, THREE*, 2020–1, 72–75. Sezgin, 267f.; Ullmann, 119. IAU, vol. 2–1, 498–501, 507; vol. 3–1, 531–535, 542［8.30, 9.3］.

25　888/9年没。ムタワッキル以降のアッバース朝カリフに仕えた人物。フナインたち翻訳者を支援し，豊富な蔵書を持っていたと言われる。『書簡』執筆の依頼者である。IAU, vol. 2–1, 515; vol. 3–1, 552［9.41］.

26　*De Sanitate tuenda*, I.1, VI 1 K.

27　注18参照。

28　828年没。東方キリスト教徒で，医者の名家ブフティーシューウ家の一人である。何人かのカリフに医者として仕え，自身も医学書を執筆した。フナインにとって早期からの支援者である。ブフティーシューウ・ブン・ジブリール（注23）の父親である。IAU, vol. 2–1, 345–367; vol. 3–1, 344–370［8.3］.

29　883/4年没。アッバース朝カリフ・ワースィクとムタワッキルに高官として仕えた人物で，彼自身著作を遺した。IAU, vol. 2–1, 516; vol. 3–1, 554［9.46］.

30　おそらくサルマワイヒ・ブン・ブナーン（Salmawayh ibn Bunān）である。840/1年没。アッバース朝カリフ・ムウタスィム（第8代，在位833–42年）の侍医で，自身も医学書を執筆した。Sezgin, 227. IAU, vol. 2–1, 423–433; vol. 3–1, 438–451［8.20］.

31　ムハンマド・ブン・ムーサー（注10参照）の息子だと思われる。IAU, vol. 2–1, 517; vol. 3–1, 554［9.47］.

32　後代の追記である。

33　集成（*jawāmiʿ*）とは，アラビア語文学界において確立した派生文献の1つのジャンルである。現存するものを見る限り，原典の内容を言い換え，また新しい情報を付け加えたものである。Cf. Sezgin, 140–150; Ullmann, 65–67.

34　アラビア語の題名はギリシア語の題名『κατ’ ἰητρεῖον』の音訳である。

35　おそらく6世紀に活躍した人物。アラビア語の伝承では，古代末期アレクサンドリアにおいてガレノスの著作の編纂に関与したと言われる。Sezgin, 160f.; Ullmann, 65. IAU, vol. 2–1, 285f., 288; vol. 3–1, 273, 276f.［5.2.1, 6.1.1］.

36　ガレノスの医学における二番目の師である。

37　100年頃にローマで活躍した，方法学派の医学者である。特に『婦人病について』

という著作で知られる。Sezgin, 61; Ullmann, 76–78. IAU, vol. 2–1, 99f.; vol. 3–1, 97–99［4.1.11.2］.

38　後代の追記である。

39　後代の追記である。

40　詳細不明。イサーク・イスラエリ（Isaac Israeli, 932/955 年没）というユダヤ教徒の医者と同名だが，おそらく別人である。

41　後代の追記である。

42　40 年頃没。アナトリアのビテュニア（Bithynia）出身で，ローマで活躍した医学者である。彼の弟子の一人が，方法学者の祖と言われるラオディケアのテミソン（Themison of Laodicea, 1 世紀末活躍）である。Sezgin, 55. IAU, vol. 2–1, 99f.; vol. 3–1, 97–99［4.1.11.2］.

43　120 年頃活躍。アナトリアのニコメディア（Nicomedia）出身で，経験学派の医学者である。懐疑的立場を取っていたとも言われる。

44　901 年没。サービア教徒の学者で，翻訳以外にも医学や数学や天文学の分野に著作を残した人物である。Sezgin, 260–263; Ullmann, 123f. IAU, vol. 2–1, 548, 593–610; vol. 3–1, 513, 550–565［9.28, 10.3］.

45　詳細不明。IAU, vol. 2–1, 517; vol. 3–1, 554［9.48］.

46　『分析論後書』を指す。アラビア語では『分析論後書』は『論証の書』（*Kitāb al-Burhān*）と呼ばれる。

47　上メソポタミアを指す。

48　Bergsträsser の修正「taswīf」ではなく，元の読み「tashawwuq」を採る。

49　後代の追記である。

50　850 年頃活躍。医師として活躍した人物であり，ダーウード・ブン・サラービユーン（Dāʾūd ibn Sarābiyūn）という東方キリスト教徒の医師である可能性が指摘されている。

51　詳細不明。エデッサのトマス（Thomas of Edessa）として知られる人物。フナインは翻訳の仕事を大量に抱えると，彼にその仕事の一部を引き受けてもらい，後に自ら改訂したという。IAU, vol. 2–1, 514; vol. 3–1, 550［9.33］.

52　詳細不明。マンスール・ブン・バーナース（Manṣūr ibn Bānās）とも言われる。IAU, vol. 2–1, 514; vol. 3–1, 550［9.34］.

53　847 年没。イブン・ザイヤート（Ibn al-Zayyāt）として知られる。アッバース朝カリフ・ムウタスィムおよびワースィクの時代に大臣を務め，多数の翻訳者を支援した。IAU, vol. 2–1, 517; vol. 3–1, 554f.［9.49］.

54　注 8 参照。

55　現トルコのシャンルウルファに当たる。ハッラーンには「サービア教徒」を名乗る星辰崇拝者たちが暮らしていた。

56　910 年頃没。フナインの弟子の一人である。IAU, vol. 2–1, 511; vol. 3–1, 545［9.19］.

57　注10参照。

58　後代の追記である。

59　後代の追記である。

60　後代の追記である。

61　後代の追記である。前半ではイスハークを「我が息子」と呼んでいるが，後半ではフナインを三人称で述べているので，前半と後半で書き手が異なると思われる。

62　セレウコス暦に当たる。これはセレウコス朝によって初めて中東に導入された暦年法であり，イスラーム勃興後も一部の地域で使用されていた。セレウコス一世（Seleucus I Nicator）の即位年とされる前312/11年と紀元とし，秋を新年とする太陰太陽暦である。Rolf Strootman, “seleucid era,” in *Encyclopædia Iranica*, online edition, 2015, available at http://www.iranicaonline.org/articles/seleucid-era（accessed 2023.8.20）.

63　フナインが伝えるガレノスの真作と偽作リストからは，該当する著作は不明である。ただし，偽ガレノスによる『尿について』（*De Urinis*）のアラビア語題名の一つは『尿の徴候について』（*Fī Dalāʾil al-bawl*）であり，ガレノス著作に基づく集成をまとめた写本の中にこの書物の集成が含まれているため，これを指している可能性がある（Sezgin, 127, no. 97; Ullmann, 44, no. 36）。

64　後代の追記である。

65　また別の人物による追記である。